

ティーチング・ステートメント

所属 工学部情報工学科

名前 深井裕二

作成日 2023年3月22日

【責任】

本学の工学部（機械工学科・情報工学科・電気電子工学科・建築学科・都市環境学科）、保健医療学部（理学診療学科・診療放射線学科）、未来デザイン学部（メディアデザイン学科・人間社会学科）において、全学共通の基本教育科目である情報処理法を担当している。また、工学部情報工学科の工学基礎教育科目である情報工学実験Ⅱの科目を担当している。情報処理法は学士課程教育における汎用的技能を身に着けるための授業として内容を構築し、大学生に必要な情報系基盤教育を行っている。情報工学実験Ⅱはコンピュータを用いた実験学習によって情報工学科にふさわしい基礎教育を行っている。授業科目以外では、所属学科のクラス担任を担当している。

【理念】

情報スキルを他の学習や社会生活に役立たせるためには、知識・技術に対する継続的かつ生涯的な学習が望ましい。情報系基礎科目は全学的な共通基盤学習として重要であり、意欲的な学習を支援するために明確性・平等性・効率性を重視して授業を実施している。また、情報スキルの習得には自らPC使って試すことが効果的であり、情報スキルの習得が実感できるよう、PCを使用した実践的な課題学習を実施している。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、学びやすい授業形態、受講環境の改善、主体性の向上、双方向性の導入、実践学習の推進など、以下に挙げるような方針と方法によって教育をしている。

方針1 「飽きさせず受けやすい授業の構築および形成的な教育と評価」

方法1 授業開始・終了時間を厳守している。

方法2 PC操作演習・小テスト・課題演習を取り入れて長時間の説明を避けている。

方法3 シラバス・教科書に沿った授業内容によって予習をやすくしている。

方法4 授業内容に対応し、かつ予習復習を考慮した教科書を作成し導入している。

方法5 問題作成ソフトウェア（Moodle小テスト問題作成ソフトQuEdit）の開発導入により小テストを作成している。

方針2 「明瞭かつストレスのない授業および平等な授業環境」

方法1 初回にカラー紙媒体によるPC操作・トラブル対応の資料を配付している。

方法2 それ以降はすべて電子ファイルで効率性・参照性の良い資料配付をしている。

方法3 授業中は常にスクリーンに情報表示し、授業進行を明確にしている。

方法4 プロジェクタスクリーン内容を学生PCに表示させる画面配信システムの開発導入で大人数授業での平等な受講環境を実現している。

方法5 採点基準を設け平等な成績評価を実施している。

方針3 「継続学習と意欲を支えるための主体性および双方向性」

方法1 授業レスポンスシステムの開発導入で授業への参加・集中を回復させている

方法2 簡易アクティブラーニング（Moodleを使ったグループ学習形態）によって学習支援・主体性向上・課題意欲向上を図っている。

方法3 毎回課題演習によってスキルの主体的学習を行っている。

方法4 自己評価システムの開発導入でルーブリック自己評価による情報スキルの自己省察を促している。これによって後の学習課題を明らかにし継続学習の動機づけをしている。

方針4 「情報スキルの実践学習」

方法1 最終テストに向けて類似問題集（解説付き）を配付して学習を促している。

方法2 課題提出日時を成績に反映させることで計画性とIT系リスク回避の重要性を伝えつつ、課題学習を促している。

方法3 不合格者に対する救済措置によって情報スキル学習の意欲低下を軽減している。

【評価・成果】

・画面配信システム、授業レスポンスシステムの有効さ・効率・満足度では、従来手法・既存システムを上回り、授業効率が向上した（DOI: 10.14923/transinfj.2016JDP7080）。

・簡易アクティブラーニングのアンケート回答では「知識・理解が深まった」が多く良好であった。

・授業評価アンケートの回答では肯定的が多く良好であった。

【目標】

・授業内容の検討・改善のために毎年度入学者の情報スキルを分析する。

・必要に応じ授業内容・シラバスを見直す。